

Lend a Hand
手を貸そう国際ロータリー第2750地区多摩東グループ
東京多摩グリーンロータリー・クラブ

Weekly Report



クラブ会長テーマ 手を貸そう! そして強く握ろう!

2003-11-19 第630回例会 NO. 14-19 2003-11-26 発行

特別事業Bグループ
『白楽荘訪問』日時: 2003年11月19日(水) 10時~13時半
場所: 社会福祉法人 楽友会
特別養護老人ホーム『白楽荘』お寺のおしょうさん、幸せなら手をたたこう
プレゼント渡し: お年寄りへ園児から
園児あいさつ
挨拶「白楽荘」主任 栗津氏
ロータリークラブより園児へプレゼント

◎歓迎ご挨拶

中村施設長

東京多摩グリーンロータリークラブ並びに多摩みゆき幼稚園の皆様、本日は早朝より、ご来訪頂きまして、誠に有難う御座います。入所されておりますお年寄りの皆さん、施設の従業員もこの日を楽しみに、お待ち致しておりました。当施設は地域の皆様に愛される、市民に開かれた施設として、安心と安全なご利用を提供すべく鋭意努力致しております。ロータリークラブの皆様には、施設を見て頂き、改良すべき点等ご意見を頂ければ幸いに存じます。今後共、ご支援を宜しくお願い申し上げます。

◎会長挨拶

会長 大松 誠二

当クラブは常に、地域に対する奉仕活動を模索し、役立てる活動があれば実施していきたいと考えております。本日の貴施設訪問の主目的は、地域施設の理解と、認識にあります。見学させて頂きまして、今後の活動の参考とさせて頂きたいと思っております。本日訪問の記念として、クラブより車椅子1台を寄贈いたします。

◎お年寄りと幼稚園児の交流

訪問の挨拶 多摩みゆき幼稚園園長 関岡俊二
お年寄りと幼稚園児の交流 進行 村岡理早子

礼拝と園児挨拶

歌: どんぐりころころ、カレンダーマーチ

踊り: 人間ていいな

手遊び: 大きなくりの木の下で



東京多摩グリーンロータリー・クラブ事務局

東京都多摩市落合1-43 京王プラザホテル多摩561号
TEL 042 (372) 6463 FAX 042 (372) 6491
E-mail tamagr@cello.ocn.ne.jp

【例会場】京王プラザホテル多摩・たまつばき4階

【例会日】●毎週水曜日12:30 ●月の最終例会18:30

【会長】大松誠二 【幹事】藤本吉文

【クラブ会報委員長】赤尾恭雄 【副委員長】正房正孝

【委員】遠藤二郎・平野行廣・佐伯和廣・澄川昇・高木淳光・由井真司・小田泰機

◎施設見学とビデオ視聴

◎卓話

白楽荘の説明 指導員 柴田氏
 在宅サービスセンター 中川氏
 白楽荘へ寄贈品目録贈呈 (車椅子 1台)



中村施設長挨拶
 吉沢実行委員長挨拶

ポール・ハリスを我々の心に! Part 14

冬が深まると、悪童連中の遊び方も変わった。年が改まると寒さも増した。大雪が降ると、木こりが長さ4フィート(1.2m)の薪を届けに来るので、木こりに頼んで山に帰るときの空櫓に乗せて貰った。最近のヒッチハイカーの先駆のようなものだった。足の丈夫な農耕馬はポール達子供が数人乗っても平気で、その上、長い連結板のついた継ぎ櫓を積んでも大して堪えなかった。この継ぎ櫓は山を下りるときに使う物で、子供達の目当ては、山に行ってからこの櫓で滑り降りることだった。

雪が固まって凍り付いている山から滑り降りてくるのは、まるでパラシュートで飛び降りるような気持ちだった。たまには、櫓がひっくり返ることもあった。また、「サンキュー・ママ」の上を飛び越えた櫓がカーブを曲がりきれずに飛び出してしまい、子供達全員が道路の脇に折り重なって放り出され、肝を潰すこともあった。

「サンキュー・ママ」と言うのは、道路の途中にある大きく隆起した部分で、丁度スキーのジャンプ台のようなものでした。ポールの子供の頃には、どこの山に行っても「サンキュー・ママ」があり、重い荷車を引きながら高い山に乗り上げて疲れた馬は、一寸休息したくなると上り坂の「サンキュー・ママ」を過ぎて道が平らになったところで一服した。坂の途中の「サンキュー・ママ」の側には必ず水飲み場があるので、馬はゆっくりと体を休めたり、丸太をくり抜いた水槽に吹き出している冷たい水を腹一杯飲んだりすることができた。夏の暑い盛りには、水槽と「サンキュー・ママ」は馬にとってはまさに天国だった。

「サンキュー・ママ」は、また子供達には別な意味があって、冬にはなくてはならないものだった。氷に覆われた「セービンの丘」は、下り坂が長い上に「サンキュー・ママ」がいくつもあり、ウォリングフォードの谷間では最高の遊び場所だった。勇敢で練達した滑り手が、固い楓の木で出来た戦艦のような櫓で滑り降りる姿は見ものだった。

(コーナー担当: 赤尾 恭雄)

◎体験昼食(4階食堂)

13:30解散

特別事業実行委員会 Bグループ

- | | |
|--------|--|
| 実行委員長 | 吉沢 洋景 |
| 実行副委員長 | 関岡 俊二 |
| 実行委員 | 高野 範城、田中 實、杉野志保子 |
| 記録、広報 | 田島真由美、小林 和夫、横倉 舜三 |
| 会計係 | 澄川 昇 |
| 玄関案内係 | 赤尾 恭雄、足立潤三郎、伊藤 英也
萩生田茂夫 |
| 入所者介添係 | 小坂 一郎、加藤喜三郎、北村 幸彦
平野 行廣、菅井 信夫、正房 正孝 |
| 所内案内係 | 杉田 誠 宮本 誠 藤原 正範
小田 泰機、内田 杏 |

【委員会報告】

◎出席報告

出席委員会

- ・ 会員総数 44名
- ・ 出席義務者数 43名(出席免除者4名)
- ・ 出席者数 28名
- ・ 欠席者数 15名(事前MU0名)
- ・ 出席率 65.12%
- ・ 欠席者: 藤原 正範、桧垣 昭、平野 行廣、北村 幸彦、小林 正、小泉 博、正房 正孝、根本 泰守、小田 泰機、佐伯 和廣、菅井 信夫、澄川 昇、高木 淳光、高野 範城、由井 眞司
- ・ 補填MU: なし

◎点鐘

会長 大松 誠二

(例会担当: 遠藤 二郎)

【ロータリー知識】 入門編
 「職業奉仕の理念」
 全分野の職業人のためのロータリー倫理訓 (道徳律)

提唱: アーサー・フレデリック・シェルドン
 第6回国際ロータリークラブ連合会年次大会
 於 サンフランシスコ 1915年 採択
 (第2680地区パスタガバナー田中 毅訳)

この職業倫理基準は、我々の共通な人間性に基づく思いやりを心に留めるものである。職業上の取引や野望や諸関係は、常に社会の一員として自分が果たす最高の義務

を考慮すべきである。職業生活のあらゆる場面において、また、自分が直面するすべての責任において、先ず最初に考えなくてはならないことは、その双方を終えたときに始めて果たされる責任と義務を満たすことである。人間の理念と業績の水準を、当初よりも少しでも高めなければならないし、このことを考えることこそ、ロータリアンとしての私の義務である。この見地から、本委員会は、国際ロータリーの職業倫理訓の基本は、次の原則に従うことに同意する。

第1条 自分の職業は価値あるものであり、社会に奉仕する絶好の機会を与えられたものと考えよう。

第2条 自己改善を図り、実力を培い、奉仕を広げよう。それによって、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」というロータリーの基本原則を実証すること。

第3条 自分は企業経営者であるが故、成功したいという大志を抱いていることを自覚すること。しかし、自分は道徳を重んじる人間であり、最高の正義と道徳に基づかない成功は、まったく望まないことを自覚すること。

第4条 自分の商品、自分のサービス、自分のアイデアを金銭と交換することは、すべての関係者がその交換によって利益を受ける場合に限って、合法的かつ道徳的であると考えよう。

第5条 自分が従事している職業の倫理基準を高めるために最善を尽くすこと。そして、自分の仕事のやり方が、賢明であり、利益をもたらすものであり、自分の実例に倣うことが幸福をもたらすことを、他の同業者に悟らせること。

第6条 自分の同業者よりも同等またはそれに優る完全なサービスをすることを心がけて、事業を行うこと。やり方に疑いがある場合は、負担や義務の厳密な範囲を越えて、サービスを付け加えること。

第7条 専門職種または企業経営者の最も大きい財産の一つこそ、友人であり、友情を通じて得られたものこそ、卓越した倫理にかなった正当なものであることを理解すること。

第8条 真の友人はお互いに何も要求するものではない。利益のために友人関係の信頼を濫用することは、ロータリーの精神に相容れず、道徳律を冒瀆するものであると考えよう。

第9条 社会秩序の上で、他の人たちが絶対に否定するような機会を不正に利用することによって、非合法的または非道徳的な個人的成功を確保すること考えてはならない。物質的成功を達成するために、他の人たちが道徳的に疑わしいという理由から採らないような、有利な機会を利用しないこと。

第10条 私は人間社会の他のすべての人以上に、同僚であるロータリアンに義務を負うべきではない。ロータリーの神髄は競争ではなくて協力にあるからである。ロータリーのような機関は、決して狭

い視野を持つてはならず、人権はロータリークラブのみに限定されるものではなく、人類そのものとして深く広く存在するものであることを、ロータリアンは断言する。さらに、ロータリーは、これらの高い目標に向かって、すべての人やすべての組織を教育するために、存在するのである。

第11条 最後に、「すべて人にせられんと思うことは、他人にもその通りにせよ」という黄金律の普遍性を信じ、我々が、すべての人にこの地球上の天然資源を機会均等に分け与えられた時に、社会が最もよく保たれることを主張するものである。

(コーナー担当：遠藤 二郎)

★「ロータリーの友」拾い読みコーナー★

11月号 《言いたい聞きたい》より

ロータリーの奉仕哲学

越谷東RC 青木 伸翁 氏

国際ロータリーの社会奉仕活動に対する方針「決議 23-34」の第三項に、ロータリーの目的が書いてあります。a、b、c、三つある目的のaには、「ロータリーの奉仕の理想の擁護、育成および全世界への普及」とあります。

この奉仕の理想とは何でしょうか。私は、奉仕をする上での心構え、もしくは、考え方を言っているものと思います。さらに考えると、ロータリーの創立間もないころ交わされた大激論の結果導き出された、ロータリーの奉仕理念、奉仕哲学のことを言っているのだと思います。

最近のR Iは、「ロータリーの奉仕の理想の擁護、育成および全世界への普及」という「国際ロータリーの目的」を果たしているのでしょうか。例えば、2002～03年度のラタクル前R I会長は、職業奉仕の原点を見直そう、基本に立ち返ろうという方針を出し、この目的を達成するための努力がうかがえました。

しかし、それを受けた国内の各地区の対応は、一部の地区を除き、ほとんどの地区は、それを真剣にとらえ実行に移しているとは私には思えません。

その証拠としては、ロータリーの奉仕哲学の原点である職業奉仕を、多くのロータリアンが正しく理解していないとみられることから明らかです。職業奉仕の考え方は難しいとか、自分の持っている技能や製品を無償で提供することが職業奉仕である、と誤解している人も数多くいます。

最近のR Iや地区は、ロータリーの奉仕の理想を守り、広めていくことを忘れ、奉仕の実践、ボランティア活動だけに心を奪われいいるとしか思えません。クラブにおいても同じようなことが言えると思います。

ロータリーの素晴らしさは、その奉仕哲学の素晴らしさにあります。それを知らずしてロータリーは語れないし、ロータリーの本当の素晴らしさは味わえないと思います。

(コーナー担当：高木 淳光、正房 正孝)

「国際大会」に参加しよう !!

26年振りに日本で開催される2004年大阪（関西）国際大会には是非とも参加しましょう。世界166ヶ国から約30,000人のロータリアンが集うであろう、ロータリーの世界的組織の偉大さを体感し、ロータリーへの思いを新たに、ロータリアンとしての資質の向上を図りましょう。次回、日本で開催される国際大会は恐らく15～20年後。日本のロータリアンにとって、今回は身近で国際大会を体験できる千載一遇のチャンス。奮って参加しましょう！！

《これまでに当クラブ会員が参加した国際大会》

◆1994年 台北（台湾）

当クラブにて独自にツアー編成（京王観光手配）。
当クラブ関係参加：赤尾恭雄（ヨシ子）、遠藤二郎（秀子）、萩生田茂夫、平野行廣（ご令嬢2人）、北村幸彦（操）、小林和夫（ミツ子）、宮本 誠（朱美）、村上 久、根本泰守、佐伯和廣（良子）、須藤起雄、田中 實（タツ）、海野栄一、横倉舜三（キヨ子）、吉尾慶太郎、事務局西川和江



高雄にて

◆1996年 カルガリー（カナダ）

当クラブにて独自にツアー編成（H. I. S. 手配）、周辺他クラブ協調参加。
当クラブ関係参加：特別代表由井重光様（照子様）、足立潤三郎、赤尾恭雄（ヨシ子）、遠藤二郎（秀子）、萩生田茂夫、橋口洋三、伊藤英也、北村操とその友人、城倉正博、吉沢洋景（都貴子）、事務局西川和江



カルガリー大会会場前



アサバスカ氷河にて

◆1997年 グラスゴー（スコットランド）

当クラブにて独自にツアー編成（H. I. S. 手配）、周辺他クラブ協調参加。

当クラブ関係参加：特別代表由井重光様（照子様）、赤尾恭雄（ヨシ子）、遠藤二郎（秀子）、伊藤英也、田中實（タツ）、事務局西川和江



グラスゴー大会会場前



ジーン・トムソン（ポールハリス夫人）の墓前にて

◆1999年 シンガポール（シンガポール）

ジャパン・アメニティ・トラベラーズ（JAM）企画ツアーに参加。

当クラブ関係参加：特別代表由井重光様（照子様）、赤尾恭雄（ヨシ子）



シンガポール大会後バリ島にて